

特別支援学校における教科教育のあり方 ～生活、職業・家庭、職業をとおして～

今回の全校研修は令和元年から3年計画で、取り組んでみました。まず教育支援部と連携し、障害特性の視点、発達性の視点、教科の視点について研修を行い、子どもを多面的に捉えるためにはどのような視点が必要かということを確認しました。それを基に、対象児童生徒の実態について各グループで情報共有を行い、有効な支援について話し合い、授業実践を行いました。

次に、生活、職業・家庭、職業の教科の取り組みの中で、小学部・中学部・高等部それぞれの学習内容やねらいについて、系統立った取り組みができてきているのか、各学部および学部を超えての系統性について、検証・考察を行いました。年間教育計画からは、教科の系統性についてつながりのある取り組みが行われていることが分かりました。「つきたい力」についても、教科の中でまんべんなく狙って取り組まれていることが見えてきました。しかし、卒業していく子どもたちが、それらの力を身につけられているのかということ、関係性のとれた教師との間で、またずっと一緒にいる友だちとの間では発揮できる等、限られた場面で発揮できる力についてはついていても、学校から一歩外に出て、どこでもどんな場面でも生かせる力にはなっていないという実態が見えてきました。

今年度は、これらの課題解決に向け『「つきたい力」を「社会で生かせる力」につなげるための授業作り』をテーマに、子どもたちの将来の姿を見据え、授業の中でどのような力をつけさせるのかねらいを明確にし、授業作りに取り組みました。

【研修の流れ】

令和元年度：子どもの実態把握と実態に応じた支援

①実態把握と情報共有

- ・障害特性の視点
- ・発達の視点
- ・教科の視点

②実態に応じた支援

- ・単元計画、指導案作成→授業実践

【研修を通して見えてきた授業作りのポイント】

- ・達成できる目標設定と評価方法の工夫
- ・何を学ぶのか・どのように学ぶかの視点からの目標設定
- ・キャリア教育の視点から授業内容の系統性の確認

課題 つきたい力の明確化



令和2年度：集団の実態把握と授業作り

- ①集団の実態把握と情報共有
- ②授業作り
 - ・主体的・対話的で深い学び
 - ・育成を目指す資質・能力
 - ・目標と評価
 - ・授業実践
 - ・授業評価と授業改善
- ③小・中・高の系統性の検証と考察

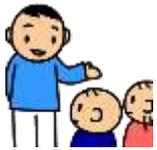
- ・卒業後を見据えた「つきたい力」の獲得
- ・実生活で生かせる力の育成
- ・身につけた力の般化

課題 学習活動と実生活をつなげるための授業作りの工夫・改善

令和3年度：「つきたい力」を「社会で生かせる力」につなげるための授業作り

- ・全学年で研究授業・研究協議を実施

(助言者：広島大学准教授 竹林地 毅 先生)



授業の中の工夫

実生活で使える力を高める

問題提起
課題設定
↓
なぜ？
↓
あ、そうか！

体験
↓
楽しい
↓
またやりたい！

失敗
↓
どうしよう
↓
できた！

発信する力
(考える・相談する)
困った
難しい
分からないを
大切にした
場面設定

行動する力
地域資源の活用
多様な集団
役割分担

応用する力
繰り返し学習
予測・見通し
振り返り
違う場面での応用

主体的な学び



対話的で深い学び

